オルケストラ　シンフォニカ　東京

第 50 回

# 記念定期演奏会

平成 21 年 4 月 11 日（土）午後 2:00 開演

## 第一生命ホール

# プログラム

## 第一部　指揮：嶋　直樹

1. セレナーデ 第四番 二長調 K203 より　W.A.モーツァルト（嶋 直樹 編）
   第一楽章 アンダンテ・マエストーソ
   第三楽章 メヌエット
   第八楽章 プレスティッシモ
2. モテット「アヴェ・ヴェルム・コルプス」　W.A.モーツァルト（嶋 直樹 編）
3. 歌劇「預言者」より「戴冠式行進曲」　G.マイヤベーア（E.マーレ 編）

## 第二部　指揮：宮本皓永

1. アドリブの組曲　服部　正
   アレグロ・コンモート　アンダンテ　アレグロ
2. 武井守成作品より　武井守成
   夕時雨　夕雲　空をゆく
3. 組曲「津軽」　渡辺浦人（高野吉司 編）
   山唄　山と湖の唄　ねぶたまつり

## 第三部　指揮：山本雅三

1. Ouverture“Omaggio al Passato”（序曲 過去への尊敬）　L.M.フォクト
2. Sui Nostri Monti（我等が懐かしき山々）　D.ジョヴァンニ（中野二郎 編）
3. Tanz Suite（舞踊組曲）　C.ヘンツェ
   ガボット　スケルツォ　ロンド

# 曲 目 解 説

## 第 一 部

### セレナーデ 第四番 二長調 K203 より　ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト（嶋　直樹 編）

アンダンテ・マエストーソ
メヌエット
プレスティッシモ

W.A.モーツァルト（1756年～1791年）は最も有名なクラシック音楽の作曲者の一人です。彼は生涯に13曲のセレナーデを作曲しました。この第四番は初期の時代の作品で原曲は第八楽章まである長いものですが、本日は第一、三、八楽章を抜粋して演奏します。モーツァルトは形式・楽章数が似たディヴェルティメントも20曲ほど作曲していますが、ディヴェルティメントが室内での演奏用であるのに対してセレナーデは屋外で演奏されるものを指すようです。

### モテット「アヴェ・ヴェルム・コルプス」

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト（嶋　直樹 編）

一曲目と同じくモーツァルトの作品。モテットとは中世からルネサンスにかけて成立し発達した声楽曲で、キリスト教のミサで歌われる曲のうち通常歌われるものではなく、特別な日にのみ歌われるものをいいます、この「アヴェ・ヴェルム・コルプス（めでたしまことのおからだよ）」は聖餐のパンとぶどう酒がキリストの体に変わるという秘蹟を祝う歌でこの歌詞は14世紀に作られました。モーツァルト以外にもバードやフォーレなど多くの作曲家によって曲が付けられています。

### 歌劇「預言者」より「戴冠式行進曲」　ジャコモ・マイヤベーア（E.マーレ 編）

G.マイヤベーア（1791年～1864年）はドイツで裕福なユダヤ人の家庭に生まれました。壮大な舞台装置や群衆を登場させるなどスペクタクル効果をねらったグランド・オペラの作曲家として知られています。第二次世界大戦の際にはドイツの「ユダヤ人３M」としてメンデルスゾーン・マーラーとともに曲の演奏が禁止されました。その影響もあり今日彼の曲を聴ける機会はあまりありません。この「戴冠式行進曲」は1849年にパリで初演された歌劇「預言者」の中で演奏されるものでマイヤベーアの最高傑作とされている作品です。（嶋）

## 第 二 部

### アドリブの組曲（Suite ad libtum）　服部　正

服部 正（1908年～2008年）は明治41年・東京生まれ。慶応義塾大学卒、学生時代はマンドリンクラブに所属、のちに菅原明朗に師事され、昭和の初期にはＯ．Ｓ．タケヰで演奏活動にも側面から協力をしておりました。マンドリン音楽はもとより日本のクラシックやオペラ等の作曲家として、またＣＭ曲をも含め数多くの作品を残されており、ラジオ体操第一の作曲も有名です。日本マンドリン連盟の副会長を務め名誉顧問でした。最近までＫＭＣの音楽指導に情熱を注いでおられましたが、平成20年３月に天寿を全う、ここに生前の偉大な足跡に感謝し追悼の演奏といたします。

この曲は1969(昭和44年)年11月の作です。総譜には「私自身アドリブ的な気分で仕上げたのでこのタイトルになった」と書かれています。さらに続けて「もちろん、途中に出てくるカデンツァやメロディは奏者の自由に任せたい部分があって、それも期待したい」としています。

### 武井守成作品　　武井守成

1916(大正4)年オルケストラ・シンフォニカ・タケヰ(ＯＳＴ)の前身を創立され、宮内省式部長官という要職につきながらも不断の熱意と実行力、先進的な達見により音楽界の進展と演奏活動に尽力を惜しみませんでした。Ｏ.Ｓ.タケイは、Ｏ.Ｓ.東京と改称されましたが、その伝統を受け継いで活動しています。

夕時雨　1930(昭和5)年5月の作品。その年の11月に作曲者指揮により初演。日本情緒に富んだ曲です。

夕雲　1931(昭和6)年9月の作品。夕雲の動きの感情を描いたもので冒頭に奏されるマンドローネが印象的です。

空をゆく　1942(昭和17)年3月の作品。行進曲になっていますが英雄葬送歌の副題がつき、作曲者は「空をゆく」は「空を征く」ではないと言っています。

なお、この曲は三部作の第一曲目で、第二曲は「陸をゆく」服部正作曲、第三曲は「海を行く」大沢寿人作曲となっています。

### 組曲「津軽」　　渡辺浦人（高野吉司 編）

渡辺浦人(1909年～1994年)は明治42年・青森県生まれ。クリスチャンの家に生まれ、幼い頃より讃美歌で音楽に親しまれていたそうです。東京音楽学校でヴァイオリンを学び、その後、教職につきます。東京教育交響楽団では1937年より指揮者を勤め、のちに名古屋芸術大学の教授となります。交響組曲「野火」で文部大臣賞を受賞、ほかにも多数の受賞作品があり、1981年には勲四等旭日小授章を授与されています。

マンドリンオーケストラの作品としては交響組曲「杜子春」が有名です。

この曲は、もともと管弦楽に尺八、三味線を加えた大編成の楽曲で、そのままマンドリン合奏に編曲し演奏するのでは意味もなく、と同時にこぶしの多い日本楽器の表現は不向きな為に悩んだ末に民謡と祭り囃子を主体にして高野吉司が編曲したものです。そのために各楽章それぞれがマンドリンやギターの特徴をよく掴んだ作品となりました。第三楽章のねぶたまつりは二種あり、青森のねぶたは戦勝の喜びをうたい、弘前のそれは出陣の無事への祈りとなっています。　（宮本）

## 第三部

第三部では、合奏団の長年の愛称(略称)として親しまれております《ＯＳＴ(オー・エス・ティー)》にちなみ、その頭文字ではじまる3曲を取り上げました。うち2曲はかつて演奏した曲です。

### Omaggio al Passato （序曲 過去への尊敬）　　L.メラナ フォクト

第21回定期演奏会で演奏しました。当時の理事長、指揮者の杉田村雄氏の解説です。

1910年イタリー・ミラノのプレットロ誌の作曲コンコルソに金牌受賞した作品でヴォートの名は一躍有名になったが此曲以外、作品はあまり知られて居ない。編成は1. 2. ドラ，ギター，チェロ，マンドローネのフル編成でマンドローネが原曲に入っているものは少なく此オリヂナルパートにコンバス

を加え演奏されるが、ブラッコの“マンドリンの群”マネンテの“メリアの平原”に比す可き当時のマンドリン音楽の大曲であって此三曲何れもマンドリン・ギター系以外の楽器を一切使わないで実に堂々とした風格を備えて居り、しかも当時のロマン派音楽の最高の味を出している。急霰の如き二拍子、過去を追想するかの様な静かな美しいメロディー、これが交互に織りなす音楽は故武井守成氏の讃歌とも私には想われるのである。題名を「過去への尊敬」と云うが、私は「過去を賛えて」としたいと思っている。

*イタリアのマンドリン黄金期の作品です。ファルボ「田園写景」、ボッタキァリ「誓い」が同じコンクールで同時受賞しています。

## Sul Nostri Monti （田園風小夜曲　我等が懐かしき山々）ﾄﾞﾒﾆｺ ｼﾞｮｳﾞｧﾝﾆ（中野二郎 編）

私達の団体名を武井氏ご遺族の意思を尊重し、タケイを東京として「オルケストラ シンフォニカ東京」に改称したはじめての演奏会（第29回）で演奏しました。

本曲は編曲者中野二郎氏1970年発行のイタリアマンドリン百曲選④に収録されており、以下はその解説よりの抜粋です。『作者はボローニアの人。1879年頃よりその才能を認められ'85年には Fontara Elice に赴いて新吹奏楽団設立に尽し'97年迄滞留、それより再びボローニアに帰り、指揮者、教授として働き傍ら多くの作品を書いた。之等は各地の作曲コンクールに提出されパレルモ、ローマ、トリーノ、フィレンツェ、ボローニアに於いて受賞した。作品には管弦楽、声楽曲、弦楽、吹奏楽曲があり、マンドリン関係の作品では、ローマ・トリーノ大博覧会への序曲、シンプロン隧道開通祝賀の序曲、序楽「アンデスの花」、夜の印象、叙情的セレナータ、詩的セレナータ、ト調の序曲、小交響詩等は本邦でも屢々上演された。本曲「我等が懐かしき山々に」は直訳すれば「我等の山々に」になるが意を尽さないので敢えて懐しきを入れた。思うに作者が日々親しんだ故郷の山々即ち北アペニンにそびえる山々を指したものであろう。フィレンツエの出版社ラピーニ主催の吹奏楽作曲コンクールに入賞した作品で出版はその翌年1898年である。珍らしいことにマンドリンとギターを挿入している。曲想は吹奏楽よりマンドリンに適わしいと思われるものなのでマンドリンオーケストラに移してみた。』

## Tanz-Suite （舞踊組曲）　C.ﾍﾝﾂｪ

ギター愛好家にはノクターン（夜想曲）でおなじみの、ドイツの作曲家ヘンツエ（Carl Henze 1872年～1946年）の作品です。ヘンツェはベルリンに生まれ、ギター、マンドリン界で活躍しました。1891年～1896年ファザーノの著名なマンドリン六重奏団と共にヨーロッパ各地を演奏。1896年にはベルリンに移り、150人のマンドリン・リュート合奏団を結成しています。ドイツは現在でもマンドリン音楽がヨーロッパのなかで最も盛んな国です。マンドリンの母国イタリアがオペラのアリアを代表とするロマン的な美しい旋律を持つ抒情的な曲を中心に愛好されたのに対して、ドイツでは古典的、または現代的な和声、リズムを特徴とする器楽曲が好まれる傾向にあります。本曲も性格の異なる以下の３つの舞曲から構成されています。

1. ガボット　（主に中庸な４/４拍子の古典的なフランスの舞曲）
2. スケルツォ　（「おどけた」という意味をもつ、軽快な三拍子）
3. ロンド　（輪舞曲とも呼ばれ、テーマが異なる旋律を挟み繰り返される速目な二拍子系）

（山本）

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 指揮者 | ○山本雅三 | ○宮本皓永 | ○嶋　直樹 | |
| コンサートマスター | ○本間輝樹 | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 第一マンドリン | ○本間輝樹 | 田島明子 | 城戸かほる | 前田啓子 |
| | ○嶋　直樹 | 新谷文子 | 冨田容子 | 金勝渓子 |
| 第二マンドリン | ○諸井美津江 | 平賀理恵子 | 大口千秋 | 中沢敦子 |
| | 後藤俊明 | 中村順子 | 木村栄子 | ○藤田正美 |
| マンドラテノール | 滝田ふさ子 | 深野靖夫 | 田中倭文子 | 石井啓之 |
| | 渡辺　清 | 佐々木興治 | 川村安子 | 高嶋典子 |
| ギター | 宮本紀子 | 門田雄二 | 黒崎恵美子 | 船崎　薫 |
| | 平田陽一 | 坂本富三郎 | 澤田行雄 | ○山本雅三 |
| リュート モデルノ | 戸次　脩 | 高梨一弘 | | |
| マンドロンチェロ | 宮崎泰行 | 田村美恵子 | | |
| マンドローネ | ○家城孝治 | ○宮本皓永 | 石井啓之 | |
| コントラバス | 佐藤　正 | ○石黒不二夫 | | |
| フルート | •西村いづみ | | | |
| クラリネット | •福嶋美香 | | | |
| ピアノ | •浦畠晶子 | | | |
| 打楽器 | •服部　恵 | •石橋知佳 | | |

○――― 幹　事
•――― 賛助出演

このたび私たちＯＳＴは50回記念定期演奏会を迎えることができました。これも皆様方の絶えざるご声援の賜と厚く御礼申し上げます。この機会に50年の歴史を振りかえり、「オルケストラ シンフォニカ 東京 50年誌」を７月までに編纂発行する予定であります。ささやかな小史でありますが、ご希望の方におわけしたいと存じますので下記ホームページにお申し込み下さい。

オルケストラ　シンフォニカ　東京（ＯＳＴ）
連絡先：〒236-0057　横浜市金沢区能見台３－28－６　　石　黒　不二夫
TEL&FAX　045－770－4806
ホームページ：http://ishii164.net/~ost/